

1 第158号

日経平均株価

2万1678円68銭

▲177円06銭(前日比)

TOPIX

1620.45

▲9.85(前日比)

2018

12/10

月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



クリスマス商戦で狙う!

任天堂、米国過去最高でWii超え



クリスマス商戦は最盛期を迎える

to Switchが米国において任天堂ゲーム専用機として過去最高の販売となり、Wiiを超えた発表されている。これを底上げする要因は、任天堂が世界的人気キャラクタークタール製品を要するバンダコナムルデイングス(7832)は

年後半はアップルの新型iPhoneの販売不振報道が国内外のマーケットに衝撃を与えたが、11月に入ってから消費動向についてはポジティブな話題が多

い。その代表的存在が任天堂(7974)で、傘下の米国任天堂は感謝祭からサイバーマンデーまでの5日間(11月22日〜26日)において、Nintendo

バンナムやカカクコムも

12月相場に突入し、市場の関心はクリスマス商戦動向に集まっている。既に11月の第4木曜日の翌日にあたる「ブラックフライデー」の売り上げは、史上最高を記録。加えて米Adobe(アドビ)が実施した調査では、米国における11月1日から26日までのオンラインショッピング売上高は、前年同期比19.9%増の585億ドル(約6兆6000億円)と大幅な伸びとなっている。クリスマス商戦も好調な内容が期待されており、国内外のマーケットにはポジティブ要因になるう。

が、Switchについては、

全般相場が暴落時でも上昇が続き、5000円に迫る高値圏の株価を維持しているが、これはクリスマス商戦での期待を反映しているものだろう。バンダイナムコ系列では乳幼児向け知育玩具の企画開発を手掛けるピープル(7865)も注目できよう。加えてオンラインショップの利用がこの数年で急速に増えている。国内ではカカクコム(2371)なども注目できよう。

日経平均日足チャート



今週の動意銘柄

トリケミカルはS高

半導体向け想定超で上方修正

週明け3日、トリケミカル研究所(4369)がストップ高。19年1月期の連結業績予想について、売上高を74億9000万円から77億7000万円(前期比20.5%増)へ、営業利益を19億1000万円から21億4000万円(同33.9%増)へ上方修正、年間配当を26円から

45円(前期21円)へ引き上げた。国内と台湾地域で最先端の半導体、光ファイバーなどに向けた化学材料を中心に、顧客の需要が予想以上となっている。

海運値上がリトップ

3日、日本郵船(9101)、商船三井(9104)の大手をはじめ海運株が軒並み高、業種別値上がり率トップに立った。米中首脳会談で

米国が中国に対し追加関税の発動を90日間猶予、米中貿易摩擦懸念が後退したこと、買い戻しや押し目買いが優勢になった。ドル建て決済の海運にとって為替が円安方向に振れていることもフォロイになっている。

ティーライフ営業益3倍

4日、ティーライフ(3172)がストップ高。19年7月期第1四半期の連結決算を発表。売上高21億100万円(前年同期比14.5%増)、営業利益1億700万円(同3.1倍)、純利益7100万円(同53.6%減)と大幅な営業増益だった。小売事業では「ダイエットプーアル茶」、「メタボメ茶」などの主力商品の健康茶、「チョウ活宣言活性フロローラ」などの拡販効果が表

DLE最終赤字拡大

4日、ディー・エールイー(3686)は急反落。不適切会計処理で過年度決算と19年6月期業績予想の修正を発表した。特別調査費用計上などで最終損益は1億円の赤字(1億2000万円の黒字のレンジ予想から、6億円の赤字(前期4億1100万円の赤字)へ大幅に引き下げたことを嫌気した。

アダストリア急反発

5日、アダストリア(2685)が急反発、東証1部値上がり率トップに立った。11月の月次売上高は既存店で前年同月比3.6%増となった。下旬にかけては冬物衣料の売れ行きが加速し、客数が伸びている。

菱瓦斯化出資引下げ

5日、三菱瓦斯化学(4182)が大幅続落。傘下の日本・サウジアラビアメタノー

正直いいさんの株で大判小判

7日の東京市場は4日ぶり反発です。6日のニューヨーク市場で、ダウが80ドル近い下げから急速に下げ止まったことで不安心理が後退し、買戻しや自律反発狙いの買いが優勢になりました。しかし、週末要経済指標ヤースQをけ的な動き状況です。SQ明けスマス休暇を上げることに物色する流れ短期値幅取りれたオイラ大地ム(3694)なを飛ばしました。11日からピアラ(7044)を皮切りにIPOラッシュ。セカンダリーで狙う銘柄選別です。花咲翁

IPOラッシュでセカンダリー



7日の東京市場は4日ぶり反発です。6日のニューヨーク市場で、ダウが80ドル近い下げから急速に下げ止まったことで不安心理が後退し、買戻しや自律反発狙いの買いが優勢になりました。しかし、週末要経済指標ヤースQをけ的な動き状況です。SQ明けスマス休暇を上げることに物色する流れ短期値幅取りれたオイラ大地ム(3694)なを飛ばしました。11日からピアラ(7044)を皮切りにIPOラッシュ。セカンダリーで狙う銘柄選別です。花咲翁

武田は買収可決

5日、武田薬品工業(4502)が反発。この日午前10時から開催されていた株主総会で、アイランド製薬大手シャイアー買収案が賛成多数で可決されたことがポジティブ視された。

企業観察 三社電機製作所(6882)

来期にらみ海外など強化

三社電機製作所(9697)は19年3月期第2四半期累計の連営業利益8億5300万円(前年同期比53.5%増)と計画を上回り大幅増益で着地。パワー半導体が堅調で、電源機器もリチウムイオン電池製造向けや高採算の大型案件なども伸び、通期予想を17億円から18億5000万円(前期比25.5%増)へ増額した。

第3四半期以降も状況に変化はなく、原材料価格上昇は生産コスト低減と高採算製品への機種構成の変化で吸収。米中貿易摩擦についても、大型電源の現地ユーザの一部欧州向けと国内販売が主体

受注状況から今期計画達成にメド

で、現時点で影響はない。受注状況から通期計画はほぼ達成にメドが立ち「ユーザの設備投資サイクルに合わせ、来期をにらんだ取り組みに着手している」(会社側)。

半導体はトランスファーマーモールド製品で小型化・高効率化ニーズに対応、電源機器はリチウムイオン電池や電源コンデンサ向けなど新エネルギー・EV関連など需要分野への取組みを強める。自動車メーカーの海外拠点へは表面処理用電源、ゴミ処理問題が深刻化する中国には焼却灰溶融電源を拡販する方針で、電源機器の海外売上比率を5割に引き上げる。

今週の動意銘柄

週末7日、バリュコマース(2491)が急反発。大量保有報告書で投資ファンドのアセットマネジメントOneの保有比率が11月30日時点で9.54%へ1.03%上昇したことが判明したこと、一段の買い増しなど需給への思惑から買いを集めた。目的は投資信託、投資一任契約に基づく投資としている。

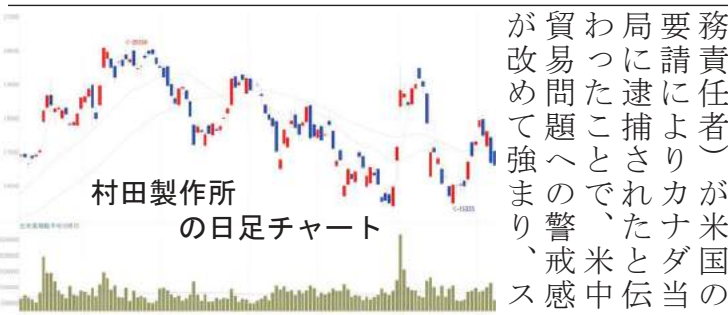
未来工東証1部上場へ
7日、未来工業(7931)がストップ高。12月13日付で東証1部へ上場、同時に名証2部から1部への指定変更を発表した。東証上場後はTOPIX連動ファンドによる買い需要が期待される。

電子部品総じて安い

ファーウェイCFO逮捕で警戒

電子部品株が総じて安い。中国大手通信機器大手ファーウェイのCFO(最高財務責任者)が米国の要請によりカナダ当局に逮捕されたと伝わったことで、米中貿易問題への警戒感が改めて強まり、ス

6日、村田製作所(6981)、ローム(6966)、TDK(6733)、アルプス電気(6770)、太陽誘電(6976)など



マートフォン向け主要部品サプライヤーの電子部品メーカーに影響を警戒した売りがかさんだ。

秋川牧3日連続S高
6日、秋川牧園(1380)が3日連続でストップ高まで買われ、連日で上場来高値を更新した。岐阜県の畜産研究所で豚コレラの感染が確認されたことをきっかけに、同社の無投薬飼育による鶏肉加工が関心を集めており、ビジネスチャンス拡大を

週足、最後の抱き線か?

先週の東京株式市場は激しく反落となりました。注目された米中首脳会談は交渉決裂という最悪の事態を回避し買い先行で始まりましたが、首脳会談の行われた日に中国通信大手ファーウェイのCFOが逮捕されていたことが6日に判明し株価が急落。4日のNYダウ799ドル安はこの情報が漏れていたのかもしれませんが、11月21日以降の7連騰はわずか3日で往って来い。

日経平均の週足は前週の陽線を陰線で包む陰線包み足。10月第1週に続く包み足ですが、今回は安値圏ですので、最後の抱き線の可能性が出てきました。しかも、今回の急落で日米主要株価指数は三尊底に近い形が認められ、日足ローソク足もセリングクライマックスであった可能性があります。長期では弱気見通しで、週初から打診買いと考へております。

日々 勇太朗



Vコマスはファンド買増し

転ばぬ先のテクニカル

中国製紙用薬品チャンス到来

銘柄探究



記者の目で企業実態を解析

ハリマ化成Gの日足チャート



決算期	売上高	営業利益	純利益
16/3	80,977	2,437	1,222
17/3	71,384	3,975	2,421
18/3	73,310	4,010	2,725
19/3(予)	80,000	4,500	3,700

PAM紙力増強剤に需要

ハリマ化成グループ(4410)は収益上振れ観測が強まってきた。19年3月期第2四半期は計画を上回り、2ケタ超の増収で利益が急拡大。1Qに対して増益ピッチが加速しており、中国ビジネスにもチャンスが広がっている。

ハリマ化成G (4410)

益27億3100万円(前年同期比52.5%増)で着地した。新製品投入効果や中国製紙用薬品子会社の好調で粗利が拡大、為替差益と繰延税金資産の追加

第2四半期累計の連結決算は、売上高億394億400万円(前年同期比12.6%増)、経常利益

計上が収益を押し上げており、2Q末、期末各々12円ととしていた配当を17円に引き上げ、年間配当34円(前期23円)へ増配を決めている。同期は最終利益のみ29億5000万円から37億円(同35.7%増)に引き上げたが、同期計画の経常利益45億円(前期比12.3%増)は為替の影響を加味しておらず、同期

新工場垂直立ち上げへ

さらに、中国製紙用薬品事業に大きなチャンスが訪れている。ネット通販向け段ボール需要に加え、現地では水質汚染対策のため環境規制が進み、大規模な排水処理施設の必要がない同社のPAM(ポリアクリルアミド)を原料にした紙力増強剤への引き合いが着実に増加、ここにきて米中貿易摩擦の影響もプラスに作用し始めた。

2Qの進捗率は60.7%に達する。しかも、直近3カ月の7ヶ月では9月では17億6000万円(同78.6%増)と増益ピッチが加速しており、大幅な上振れが期待できる状況。

中国は年間2500万トンの古紙を輸入しているが、うち約半分が北米から。ところが、米中からの輸入がストップしている。不足分は日本などからの輸入に頼っているが、北米のバージンパルプ主体の古紙とは違い、何度もしサイクルしているため、パルプの繊維が短く、段ボールなどに必要な強度を確保するにはより多くの紙力増強剤が必要になるという。

現在、フル生産でも需要に追い付かない状態で、4Qに稼働を予定する山東省の製紙用薬品工場は垂直立ち上げが確実。持分法適用関連会社にしたスウェーデンのサンパイン社も来期から連結収益にフル貢献して、ことさらに、足元の業績はもとより中期的にも高成長が続く。電子材料ではトヨタと超高耐久のソルダールペーパーの開発を進めるなど先端材料への期待も強い。

潮流

CTA売りに惑わされるな!

経済の本質的分析せず短期売買

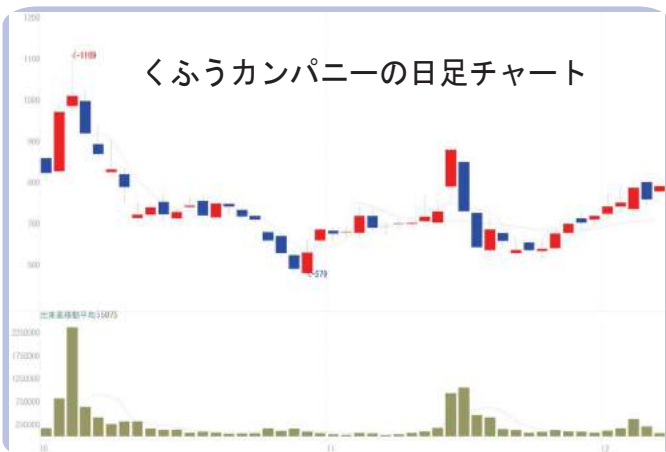
marKet/bAnk



4日の米株は急落。S&P 500種は90.31ポイント安(▼3.23%)の2700ポイントで終了した。今回の急落はCTA(商品投資顧問)の売りがもたらしたものだ。

S&P 500種が日本時間5日の午前1時50分頃に200日移動平均(2762ポイント)を割れ込むと一気に売りが加速し、3時30分には84ポイント(3%)安の2706ポイントまで急降下した。CTAから300億ドル(約3兆4000億円)といった巨額な売りが出たようだ。米2年債が米10年債を上回ったことが景気後退懸念と捉えられた。このような局面は、1980年代後半以降で4回ある。内3回は逆イールドの発生後にリセッション(景気後退)が到来している。

ただ、米国の2年と10年債の利回りが逆転している間、株価は必ずしも下がっていない。サブプライム危機前の2005年12月~07年6月にかけて逆イールドだったが、その間は日経平均が13%高、米ダウ平均は26%上昇している。00年2月から同12月までの逆イールド期間は日経平均が3割近く下落したが米ダウ平均は1%程度の下げに止まった。88年12月~90年3月は日米ともに株価は上昇して



いる。逆イールドは短期で資金を調達し長期で貸し出す銀行にとって預貸利ざやを縮小させる。資金利益の縮小懸念から銀行が長期の貸し出しを抑制することで景気後退につながる。ただ、名目潜在成長率から長期金利を差し引いて算出する投資利ざやは過去の逆イールド局面ではほぼ0%だったが、今回は1%程度のプラスを維持している。成長期待から企業の投資意欲は高く、銀行は実際には十分な利ざやを確保している。

CTAは短期投資で売買を繰り返すヘッジファンドだ。「逆イールド」のワードや「中国の情報通信機器大手ファーウェイの孟晩舟最高財務責任者(CFO)が米国の要請を受けたカナダの捜査当局に逮捕された」といったニュースをきっかけに株価指数先物に売りを出す。日本でも「円買い・225先物売り」のプログラム売買を拡大させて日経平均を急落させている。しかし、CTAの売りは長続きしない。機械的に売りを仕掛けているだけで経済の本質的な分析など何も行ってないからだ。

潮流銘柄はくふうカンパニー(4399)、エルテス(3967)、フロンティア・マネージメント(7038)。

岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

逆イールド株価下落と限らず

ここからの下げ限定的

来年にかけ再び堅調な動きへ

光世証券

取締役 西川 雅博 氏

1日の米中首脳会談では決裂が回避されたものの、猶予期間90日間に警戒する向きが多い。また、米国債券市場においてイールドカーブのフラット化（一部長短金利逆転現象）が起き、景気の転換点を示唆しているのではとの見方も売りを誘う。しかし、しばらく不安定な動きをしたとしても、このまま長期下落トレンド入りする可能性は低い。

もし米中による新冷戦時代が到来した場合、世界経済への中長期的影響がどのような形で現れるのか、金融市場が計りかねていることが株価乱高下につながっている面もある。ただ、足元の貿易摩擦問題は首脳会談により互いの経済的利益を優先し、妥協点が見出される可能性が高まったことは評価。交渉期限の2月末までは不透明感が払しょくされないという反応だが、システム売買の影響もあり短期間で値幅調整が一気に進んだと見るべきだ。米中对立警戒によるここから下げは限定的で、ソフトバンクの大型IPOの後は年末に向け需給面の改善も期待出来よう。



米国経済のファンダメンタルズは依然好調で大きな変動はない。信用状況を示す米ハイイールド債市況は、下落しているものの、15年から16年の急落時に較べても平穏な値動きだ。今回利上げ打ち止め見通しが台頭したが、今後も継続するであろう金融引き締め期における一時的な事象であり、来年にかけては再び株式、REIT、商品ともに堅調に推移していくと見る。日本株も同様で、TOPIXでは10229の安値1

相場展望

589.56と昨年後半の上昇相場がスタートした起点でもある1580〜1600近辺が重要な下値支持になるのでは。



経営者必見！

企業が抱える様々なリスクに備える

無料相談受付中！

証券市場新聞提携フィナンシャルプランナーが提案します

無料相談はココ・パートナーズ（株）アドバイザー業務部まで

info@marketpress.jp

今週の

活躍期待銘柄



ログリー (6579)

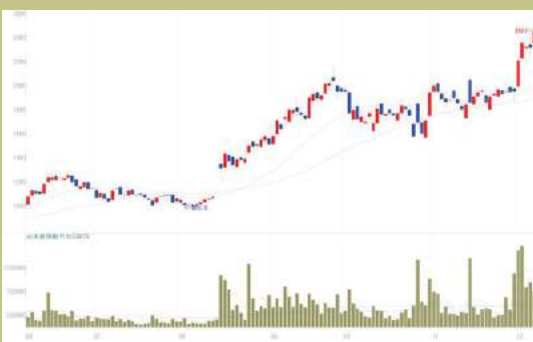
6月上場時の高値にトライ

ログリー(6579)の株価は3000円トビ台で底打ち確認、10月10日に付けた高値4100円を抜けて上昇加速の気配となってきた。6月上場時に付けた最高値4695円を抜ければ上値のフシは無く、5000円台が見えてきそうだ。

日本初のネイティブ広告プラットフォーム「LOGLY lift」を展開。新型配信ロジック「デモグラフィックターゲティング配信」の導入効果から19年3月期は第2四半期累計(4~9月)の営業利益で1億500万円(前年同期は非開示)を計上、進捗状況から通

期予想の1億8000万円(前期比43・5%増)は上ブレ期待が高まる。メディア向けユーザー支援ツール「Loyalfarm」ではタイアップ広告を一元管理する機能を拡充しており、この効果にも期待。(と)

19年3月期は上ブレ期待



オイラ大地 (3182)

営業利益2倍も上振れ余地

オイシックス・ラ・大地(3182)は1700~2100円のボックス相場を上放れ最高値を更新。急上昇してくる5日移動平均を下値支持ラインに噴き値局面が近そうだ。有機・無農薬食材の宅配事業グループで、食の安心・安全へニーズが強まるなか、Oisixを中核に大地を守る会、2月に子会社化したらでいっしゅぼーやの3ブランドの競争力を高め、売り上げを拡大。一方で共通機能を統合して効率化も進めており、19年3月期第2四半期は連結売上高317億2000万円(前年同期比67・5%増)、営業利益11億1

500万円(同4・73倍)と大幅増収で利益が急拡大した。通期は上方修正で営業利益18億円(前期比2・0倍)を見込むが、2Qの進捗率は62・0%に達し、総合効果を考慮すれば大幅上振れが濃厚だ。(さ)

売上拡大の一方効率化も

※チャートは日足

内需系の強さが光る

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

12月第1週の東京市場は混迷を深める動きになりました。週初は米中首脳会談を好感する形で日経平均は予想通り上った放

れてはじまり、11月8日の高値をクリアして2万2600円台に乗せてきました。が、買い一巡になると高値圏でのみ合いました。その後は7連騰したことで米中会談で制裁の緩和が予想通りであったため材料出尽くしとなり、上げ幅が次第に縮小。この欄を執筆している6日はカナダ司法省が、中国通信機器大手、華為技術(ファーウェイ

ゼネコンや不動産を狙う

と明らかにしたことで、ハイテク売りから下げ幅を拡げる動きになっていきます。海外の不安要因に加えて、国内では19日上場するソフトバンク(9434)の購入資金確保に絡む換金売りも圧迫要因になっています。この換金売りは日にちが経つと影響も薄らいでいきますので、2万1000円を割るところまで下落することはないとみています。むしろ、11月22日から続いた戻り相場に乗り切れなかった向きには新たに拾うチャンスになります。換金売りが収まり、19日上場しますと資金が戻ってきますので、年末には2万3000円以上に回復する可能性が高いと見ています。

内需系ではゼネコンの強さが光っていました。大成建設(1801)、鹿島建設(1812)などは4日の下げから大きく戻しており、先高の可能性をみせていたといえるでしょう。また地味ですが、不動産株も反発力がみられ、東京建物(8804)、住友不動産(8830)などが

イ)の孟晩舟・最高財務責任者(CFO)を逮捕した

しつかりしてしまいました。同様に関西電力(9503)も下落傾向が続いていましたが、下値抵抗力が付いています。医薬品は大日本住友製薬(4506)が高値更新に進み40000円台に乗せており、引き続き注目です。食品もサントリー食品インターナショナル(2587)、アサヒグループホールディングス(2502)がもみあいゾーンから抜け出しており、注目すべき動きとなっています。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～オンライン販の欠点～

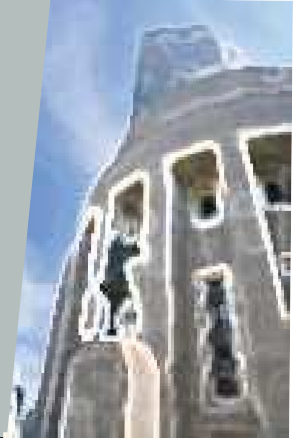
景気拡

大のピークアウト感が懸念されていたが、今年の「ブックフライデー」の売り上げが史上最高を記録したことなどの報道を見る限り消費意欲は衰えていないと感じた。

感謝祭という文化がない日本にとって、その翌日に行われる大規模な安売りセールは関係ないことだが、

大手のショッピングモールでは、期間限定の割引券を配布して「ブックフライデー」との大きな見出しで大規模なセールを行っていた。普段配布しない割引券の案内が届くと、さすがに急ぎでないと思っていたものを衝動買いしてしまった。そうなるとも一日でも早く商品を手にしたくなるのだが、数日経っても届く気配がない。そして4日後が遅れているのお詫びメールが届いた。

リアル店舗なら、直接商品を手にして買うことができるし、品切れなら諦めるか、店員と直接話して入荷連絡を待つ方法ができるが、オンラインはお店を直接覗くことができないから、配送の遅延はお店の信用という面で致命傷になる。宅配会社の人手不足も深刻なだけに、今回の大規模セールでオンライン通販の欠点を改めて感じ



New product

TOA フルHDの高精細映像 PTZカメラ2機種と専用ビューアソフト



フルHDネットワークPTZカメラ

TOA(6809)はIPネットワーク経由でフルHD画質の高精細映像を配信する防犯カメラシステム「TRIFORAシリーズ」のPTZカメラ2機種と、シリーズ専用ビューアソフトを発売した。TRIFORAシリーズは、LANなどのネットワークに直接接続し、映像の監視・制御を行う映像ネットワークシステムで、フルHD画質の高精細映像を、最大30fpsのフル動画でライブ表示できる。画像圧縮方式としてH.265を採用しており、長時間記録も可能。今回新発売となるのは、回転台、電動ズームレンズを一体化したPTZカメラで、PC画面上で、最大でカメラ1024台のライブ映像と録画映像が確認可能。今回のラインアップ拡充により、さらに柔軟なシステム構築が可能になった。

九州エリアへ初出店

イトアンド

R Baker福岡下原店オープン



福岡下原店

イトアンド(2882)は、ベーカリーカフェ業態30店舗目となる「R Baker osaribyanの自家製パンやお米粉を使用したモチモチは外はサクッと、中はモチモチの食感が特徴となっている。具材がぎつりと詰まったサンドウィッチや惣菜パン、食パンを販売している。

住所・福岡市東区下原4丁目
営業時間 10:00~21:00



R osarian B R A N C H 福岡下原店」を11月30日にオープン、R Bakerとして九州エリア初出店となった。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

波乱の中メジャーSQ

仕掛け的な動きに注意

先週の日経平均は荒れた。週初こそG20の無難に過ぎないイベント通過により上昇したが、火曜日からは景気の後退サインと見られる米国の長短金利の逆転により、NYダウが大幅下落しその影響で日本株も500円を超える大幅下落となった。さらに、木曜日には中国通信機器大手、ファーウェイの幹部がカナダで米国の要請で逮捕されたことが明らかになり、米中貿易戦争が激化するのを嫌気して日経平均は一時600円超の下落となった。先々週7日間の上げ幅を先週は3日間で埋めた形である。

全て海外発の材料であるが、アジアで最初に開く東京マーケットで動きを試される為動きの激しい相場展開となつてきている。米中の関税問題やFOMCなど突発的に相場に影響しそうな海外発の材料が控えているため、今後もしばらくボラテ

先週の日経平均は荒れた。週初こそG20の無難に過ぎないイベント通過により上昇したが、火曜日からは景気の後退サインと見られる米国の長短金利の逆転により、NYダウが大幅下落しその影響で日本株も500円を超える大幅下落となった。さらに、木曜日には中国通信機器大手、ファーウェイの幹部がカナダで米国の要請で逮捕されたことが明らかになり、米中貿易戦争が激化するのを嫌気して日経平均は一時600円超の下落となった。先々週7日間の上げ幅を先週は3日間で埋めた形である。

今週のスケジュール

- ・ 7日 米11月雇用統計(22:30)
- ・ 10日 7-9月期GDP改定値(8:50)
10-12月景気ウォッチャー調査
- ・ 11日 11月マネーストック、10-12月期法人企業景気予測調査(8:50)
英議会はEU首脳会議で決定した離脱合意案の採択を実施
米11月生産者物価(22:30)
- ・ 12日 11月国内企業物価指数、10月機械受注(8:50)
米11月消費者物価指数(22:30)
- ・ 13日 11月都心オフィス空室率(11:00)
ECB定例理事会(ドラギ総裁会見)
EU首脳会談(~14日)
- ・ 14日 12月調査日銀短観(8:50)
メジャーSQ算出日
中国11月鉱工業生産、中国11月小売売上高、中国11月都市部固定資産投資(10:00)
米11月小売売上高(22:30)
米11月鉱工業生産・設備稼働率(23:15)

イティの高い相場展開が続くと思われる。チャートでは6日に付けた安値(2万1307円72銭)を維持できるかどうかであろう。この水準は10月26日の安値(2万971円93銭)からの底値抵抗ラインに位置する。この抵抗ラインを割つてくると、いずれ2万1000円割れを試す展開になると思われる。

現在はボリンジャーバンドの△2σ(2万2609円)から▼2σ(2万1290円)まで一気に下

円銭)を空けており、窓埋めの展開は期待できよう。ただ、この水準は一目均衡表の基準線(2万1971円)、転換線(2万2003円)が位置するため、窓埋め後再び下落に転じる可能性もあり、終値でしっかりと抜けてくるか見極めが必要である。上値メドは2万2300円を予想する。下値メドは21日の安値(2万1243円38銭)、ボリンジャーバンドの▼2・5σ(2万1080円)が上げられよう。今週はメジャーSQ週であり仕掛け的な動きが入つてくると思われ十分注意が必要である。(ハチロク)

編集後記

忘年会シーズンを迎えた。筆者は安い居酒屋をはしごするのが趣味というか好きで、飲み会の幹事を任されることによくある。ただ、旨い魚を安く出す店となるとうとう私も限られ、毎回同じ店を使っているが、知っている人は知っている。かなり早くに予約を入れないと店を押さえられない。またも大荒れの東京市場だったが、例年通り値相場の動きは活発化するだろう。早めに安く旨味のある低位材料株を探しておきたいと思う。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。